

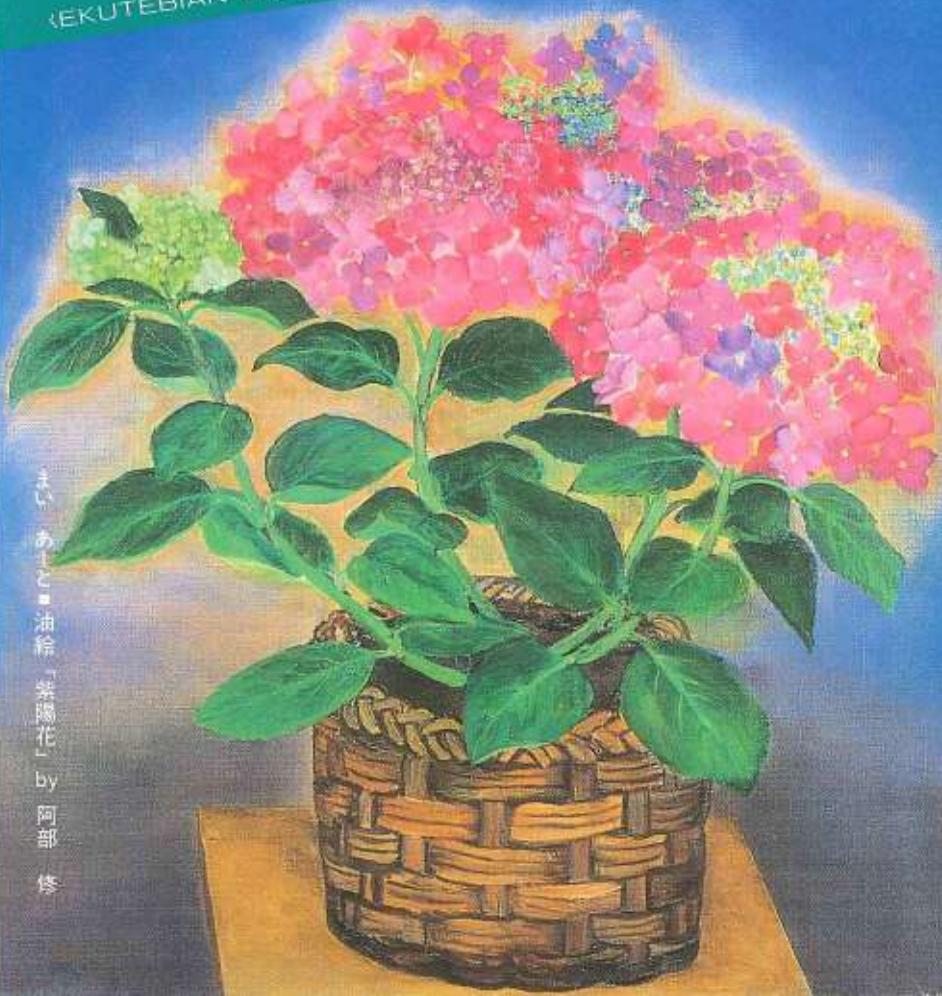
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

# えくてびあん

6

(EKUTEBIAN VOL.13 JUNE 1995 EKUTEBIAN)

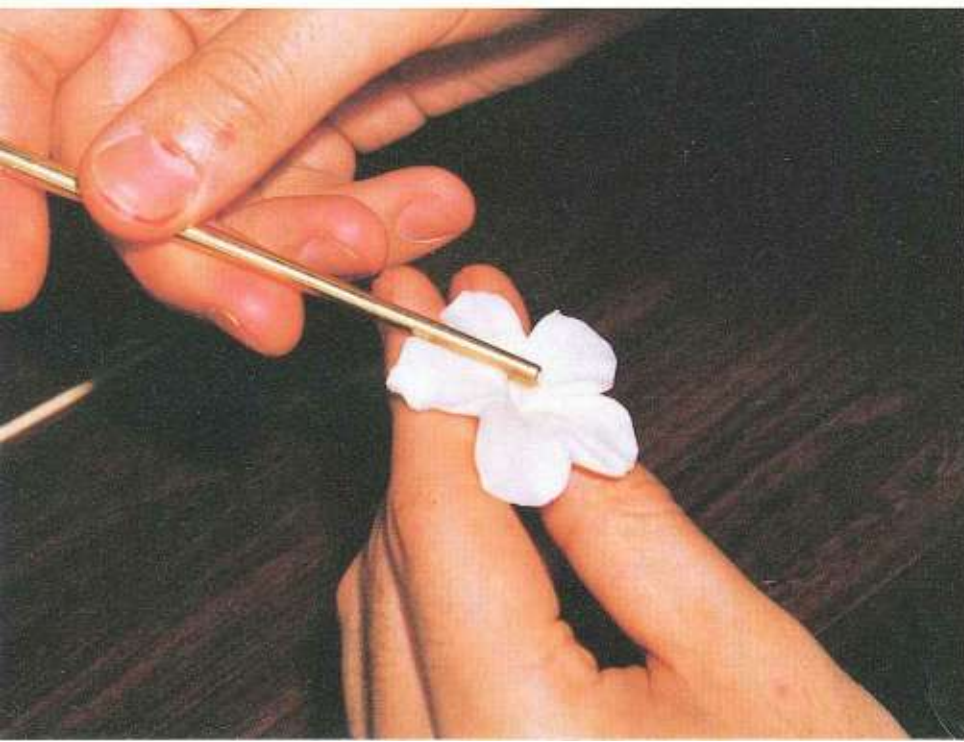


まいあーと・油絵「紫陽花」by 阿部 修

# 結城公子さん(栄町3丁目)と パンフラワーづくりをたのしむ

小麦粉から生まれる芸術、パンフラワー。生地に絵具を混ぜ合せ、乾燥しないよう早くこねて小さなお団子を作る。表面に楊枝で穴をあければ何とも苺らしくなってきた。葉の部分はお団子を本物の葉の上に丁寧に伸ばし、葉脈をそのまま写し取る。花や萼(かく)は少々難関。お団子に鋏をいれ、分けた部分を指の腹に乗せ、花びら一枚ずつ形どっていく。「何を作るにも最初のお団子をきれいに作ることが肝心。あとは工夫次第です」(結城さん)

完成品。勿論、結城さんの作品。リアルさにこだわる必要はないが、本物を充分観察することは大切。



「お花が上手に出来れば一人前ですよ」  
確かに一枚一枚を均等に伸ばすのは至難の業。  
その分、完成の喜びもひとしお。

## MADE IN EKUTEBIAN

メイド・イン・えくてびあん

5



八木下禎治歌碑

(寄贈：五十嵐栄治氏)  
市営野球場前・根川緑道

若山喜志子歌碑

(寄贈：佐野忠正氏)  
立川福祉会館前  
詩歌のみち水源

若山旅人歌碑

(寄贈：佐野忠正氏)  
立川公園前・菅澤園入道

えくてびあんレポート

街が詩情であふれる時

若山喜志子。若山旅人。八木下禎治。  
4月14日。詩歌のみちに建てられた三歌人の碑。  
本誌別冊『いくつになってもうたごころ』で、  
歌人・若山旅人はこう語った。  
「ものをつくるということは人間最大のテーマですから…」  
旅人先生の言葉に従えば、  
立川にはテーマを持つ人、テーマを愛する人の何と多いことか。  
いよいよ、街が詩情であふれる時がやって来た。

※裏面に関連記事

立川市文化協会会長・五十嵐栄治氏より立川市長に目録の贈呈。



寄贈者にそれぞれ、感謝状が手渡される。(写真は草野忠正氏)



故八木下禎治氏長男・守氏も建立の喜びを。



若山旅人氏。その詩情、衰えを知らず。



谷川水重氏の進行で、式は滞りなく。



花の舞う中、響き渡る入魂の朗詠。

詩歌のみち  
三歌碑除幕式



# わたしの 玉手箱

## 7. キティランド(立川駅ビル店)・ 桂正さんの「熱帯魚」

水槽の中を悠々と横切る古代魚。夜行性の魚は眠たげに浮木の影に、珍品種を得る喜びはともかく、ポーッと眺めているうちに訪れる安心感。桂さんが水槽をベッドの脇に置く、その意味が分かった。



■古代魚。地球上に現れた時からこの姿。フロリダスポットゲイ(左)とアミア・カルバ(上)

■(下段)プレコと呼ばれる種に属する熱帯魚。スネークスキン(左)、ゴールドエッジ(中央)、スカーレットトリム(右)

